

2024年度AXIES年次大会RDM部会企画セッション  
~研究データ管理（RDM）は研究活動をどう促進するか~

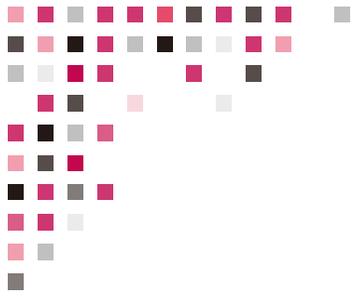
# 立命館大学における研究データ管理の現状と課題

2024年 12月 10日

立命館大学 研究部 中原 康行

Futurize.

きみの意志が、未来。



## 目次

# Contents

1. 自己紹介
2. 立命館大学の  
研究データ管理・利活用に関する検討状況
3. 具体的な研究データ利活用事例
4. 今後検討していきたいこと

# 1. 自己紹介 立命館大学について

2つの大学・5つの附属小・中・高校を持つ総合大学

[立命館学園の構成]



2024年度 衣笠の映像学部と BKCの情報理工学部がOICへ移転！

- OIC
- 経営学部
  - 政策科学部
  - 総合心理学部
  - グローバル教養学部
  - 映像学部
  - 情報理工学部



- 衣笠
- 法学部
  - 産業社会学部
  - 文学部
  - 国際関係学部
  - 映像学部



- BKC
- 経済学部
  - 理工学部
  - 薬学部
  - 生命科学部
  - スポーツ健康科学部
  - 食マネジメント学部
  - 情報理工学部

学生数 (2024年5月1日現在)

学部生

34,600名

大学院生

4,144名

専任教員数  
2023年度

1,399

学部研究科数

16 学部 21 研究科

志願者の近畿圏外比率

50.5%

(2024年度一般選抜志願者における割合)

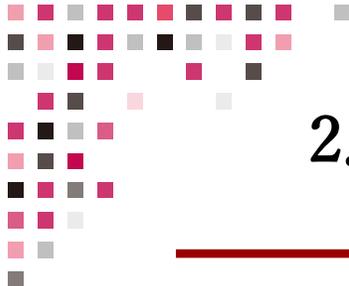
研究拠点数

研究機構 6 研究所 16 研究センター 33

大学発ベンチャー数 (2023年度)

135件 全国10位(私大4位)

出典：経済産業省



## 2. 研究データ管理・利活用に関する検討状況

### 立命館大学における研究データの管理・利活用に関する運用方針の策定

2022年6月 「研究データの管理・利活用に関する検討委員会」を常任理事会の元に設置（2022年6月29日常任理事会）

2022年7月～「研究データポリシーの策定」と「研究データ管理・利活用のための環境・体制検討」の2つのWGを立上げ。5回のWGと2回の検討委員会を実施。他大学や教員へのヒアリングを実施

2023年2月 常任理事会にて、検討委員会での検討結果の報告  
研究データの管理・利活用に関する運営方針を議決

2023年3月 立命館大学研究データポリシーの議決

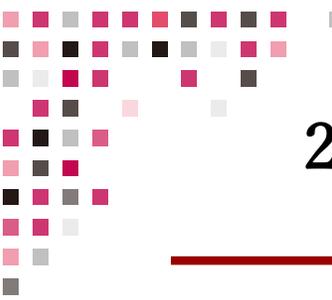
2023年4月 GakuNin RDMへの登録完了。学内利用可能な状態に整備  
案内HP公開

2023年6月 GakuNin RDMの拡張ストレージとしてAzure Blobの導入完了

研究部が主管  
学術情報部(図書館)、情報システム部、  
総合企画部、財務部が参画

・ GakuNinRDN導入を含む保存基盤  
・ 機関リポジトリを含む公開基盤  
の整備方針を策定

・ 一定の条件を満たす場合に、大学の支援として拡張ストレージを提供



## 2. 研究データ管理・利活用に関する検討状況

---

### ①GakuNin RDMを導入すること

⇒**保存基盤の選択肢として整備**。他機関がGakuNin RDMを利用してデータ共有を行う際、本学もGakuNin RDMを導入していないとデータ共有ができない可能性があることから導入する。

### ②GakuNin RDMをNII標準ストレージと拡張ストレージの形態(パターン2)で利用すること。拡張ストレージは教員個人が契約する外部ストレージを接続可能なこと

⇒**研究データポリシー第2条により研究データの管理・公開・利活用の方法は研究者が決定**することとした。その上で、パターン2の形態は他の選択肢に比べ、研究者が研究データ管理方法を柔軟に選ぶことができ、研究者に新たな負担をかけずに導入できるためパターン2を選択する。

### ③大学の支援として、標準ストレージの容量拡張用にAzure Blobを提供すること

⇒公的資金獲得後、研究データ管理の際にGakuNin RDMでの管理が必要で、かつ標準ストレージの容量では不足し、研究者自身で外部ストレージを用意することができない場合等に、**機関が用意する拡張ストレージとしてAzure Blobを提供**する。

### ④GakuNin RDMの運用方法、サポート範囲(マニュアル用意、問い合わせ対応、大学用意の拡張ストレージの申請など)

⇒GakuNin RDMの利用にあたっては、研究部HPに研究データマネジメントに関するページを作成し、マニュアルや問い合わせ窓口を設置するなどして運営を行う。



## 2. 研究データ管理・利活用に関する検討状況

The screenshot shows the Ritsumeikan University Research Department website. The main navigation bar includes '研究助成', '研究費適正執行', '研究者任用・受入', '企業等との研究交流', '研究者の倫理 安全保障輸出管理', and '様式・書式集'. The current page is titled '研究データの管理・利活用' and features a sidebar with '研究データの管理・利活用' and 'GakuNin RDMの利用方法 (学内専用)'. The main content area is titled '【研究データの管理・利活用・情報セキュリティ】' and contains a section for '1. 立命館大学研究データポリシー 研究データの管理・利活用'.

### 1. 立命館大学研究データポリシー 研究データの管理・利活用

立命館大学は2023年3月29日に「立命館大学研究データポリシー」を策定しました。これは、立命館大学の研究者が研究データを管理・公開・利活用する際の原則を示すものです。また「立命館大学研究データポリシー解説」では、ポリシー本文に沿って、定義や考え方などの解説を加えています。

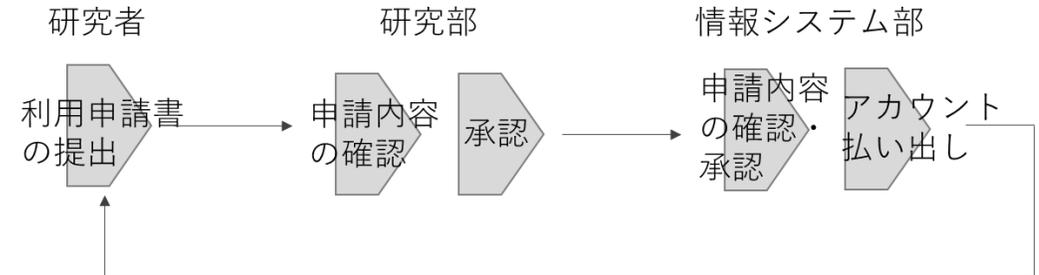
- =立命館大学研究データポリシー [PDF](#)=
- =立命館大学研究データポリシー [解説PDF](#)=

### 2. 研究データの保存

研究データの保存方法は、法令、立命館大学の規程その他これに準ずるものの範囲内ならびに他の者の権利および法的利益を書き込み範囲内において研究者が決定することができます。これまでご利用の保存方法に加え、保存先の選択肢の一つとして下記の「GakuNin RDM」の使用が可能です。

#### ●研究データの管理基盤(GakuNin RDM)

「GakuNin RDM」とは、国立情報学研究所 (NII) が提供している研究データ管理サービスです。「GakuNin RDM」は研究プロジェクト実施中に、個人の研究者あるいは研究グループが研究データや関連の資料を管理するために使用することができます。既存のストレージや研究ソフトウェアと連携し、クローズドな空間で、研究プロジェクトに関わるファイルのバージョン管理や、メンバー内でのアクセスコントロールができます。研究公正への対応としての研究証跡を記録する機能や、ファイルを保存する機能を有します。2023年4月1日より、本学のアカウントを持つ研究者の方々が可能になりました。WEBブラウザから本サービスを利用することができ、学外からも本サービスを利用して研究データの管理が可能です。



### GakuNinRDM 追加ストレージ利用申請書

|  |       |
|--|-------|
| 提出日                                    | 年 月 日 |
| 教職員番号                                  |       |
| 研究代表者/研究分担者 氏名<br>(採択された公的資金における本学研究者) |       |

#### 公的資金獲得に伴う追加ストレージ利用のための申請内容

|  |                                      |                          |
|--|--------------------------------------|--------------------------|
| 公的資金事業所管<br>(JST,NEDO 等)               |                                      |                          |
| 事業名称                                   |                                      |                          |
| プロジェクト採択期間                             | 年 月 日 ~ 年 月 日                        |                          |
| ストレージ利用容量の見込み(利用できる追加ストレージ容量は1TBまでです。) |                                      |                          |
|  | 項目   記入欄(確認済みの場合チェック)                |                          |
| チェック項目                                 | GakuNin RDM での研究データの管理が必要である         | <input type="checkbox"/> |
|  | GakuNin RDM の標準ストレージ 100GB の容量では不足する | <input type="checkbox"/> |
|  | 研究者自身で外部ストレージを用意することができない            | <input type="checkbox"/> |
|  | GakuNin RDM 利用規約や免責事項について確認済みである     | <input type="checkbox"/> |
| プロジェクト終了後の研究データの保存期間                   |                                      |                          |



## 2. 研究データ管理・利活用に関する検討状況

---

### ■課題

- ・システム面で第一段階の整備は行ったが、積極的な運用が進められていない
- ・研究データポリシーでは研究者主導による研究データ管理の体制として整理
- ・様々なデータ形態、保存形態があるなかで、一律の整理が難しいことが背景
- ・組織的な支援体制が組めていない
- ・今後、利用が膨大に増加した場合の予算措置の調整が必要

### ■進んできていること

- ・オープンアクセスに関する支援体制
- ・研究関連情報の組織的整備



### 3. 具体的な研究データ利活用事例 立命館大学アトリサーチセンター



文部科学省 国際共同利用・共同研究拠点「日本文化資源デジタル・アーカイブ国際共同研究拠点」  
(ARC-iJAC)

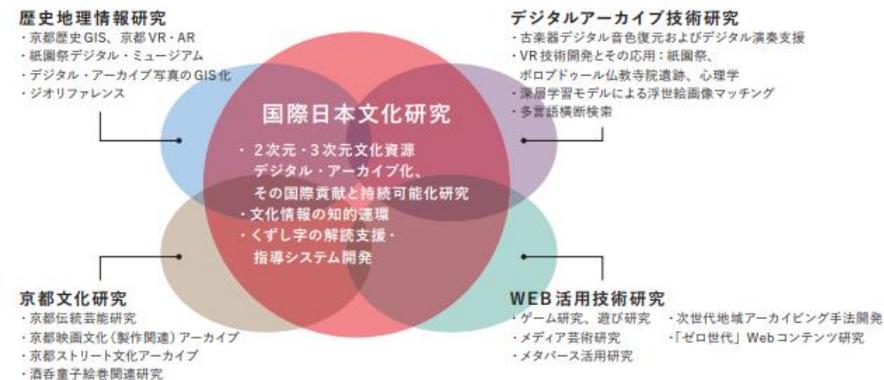
- ・アート・リサーチセンター (ARC) は、全国に7拠点ある国際共同利用・共同研究拠点の一つで、私立大学では唯一の認定を受けています。
- ・デジタル・アーカイブを基盤にオンライン上で研究活動が完結する研究環境「ARCリサーチスペース」を提供し、効率のよい研究活動を支援します。
- ・施設・機器等の貸与だけでなく、これからデジタル型研究に取り組もうという方でも、テクニカルサポートを受けながら、新しい研究手法に挑戦できます。

- 1) 高度な専門性に対応する「文化資源型データベース」群
- 2) プロジェクト単位で構築できる「レファレンス型データベース」群
- 3) 研究グループの活動や成果を簡単に表現できる「ヴァーチャル・インスティテュート」/「デジタル・ミュージアム」システム
- 4) 研究グループ単位で構築する「ArtWiki」システム
- 5) 商用クラウドに匹敵する機能を持つ「ARC Cloud」システム



- ・1998年に設立された研究拠点
- ・有形・無形の文化資産を、アーカイブ化
- ・歴史的、社会的観点から研究・分析する共同利用・共同研究拠点
- ・2019年文科省「国際共同利用・共同研究拠点」に認定

#### 文理融合の研究構造



修復作業

デジタル・アーカイブ作業

デジタル・アーカイブされた紙図祭の船鉾

浮世絵ポータルデータベース

### 3. 具体的な研究データ利活用事例

#### ARCポータルデータベース

#### 文化資源閲覧データベース

|                    |                          |
|--------------------|--------------------------|
| 浮世絵・日本絵画ポータルデータベース | 古典籍ポータルデータベース            |
| 番付ポータルデータベース       | 近代書籍ポータルデータベース           |
| 板木ポータルデータベース       | 催事型写真ポータルデータベース          |
| 文化資源ポータルデータベース     | 景観型写真ポータルデータベース          |
| 日本関係地図ポータルデータベース   | 動画音声ポータルデータベース (ArtTube) |

代表的なデータベースとして、

- ・「浮世絵データベース」は88万件
- ・「古典籍データベース」は61万件

をデジタルアーカイブ化し、利活用可能な状態で提供

大英博物館やメトロポリタン美術館などの日本美術コレクションをデジタル化し、ARCデータベースにも登録

本拠点での2023年度の共同研究受入者数は189件

| 海外連携機関                     | 点数     |
|----------------------------|--------|
| イギリス・大英博物館                 | 41,405 |
| アメリカ・ボストン美術館               | 72,561 |
| アメリカ・メトロポリタン美術館            | 5,478  |
| イタリア・サレジオ大学マレガ文庫           | 6,055  |
| イタリア・ヴェネチア東洋美術館            | 3,985  |
| ベルギー・王立美術館                 | 12,077 |
| アメリカ・シカゴ美術館                | 11,534 |
| オランダ・ライデン国立民族学博物館          | 16,499 |
| アメリカ・バークレー美術館・太平洋フィルムアーカイブ | 2,023  |
| カナダ・ロイヤル・オンタリオ・ミュージアム      | 5,512  |

### 3. 具体的な研究データ利活用事例



ARC所蔵・寄託品 浮世絵データベース 10件の内5件目を表示中

ImageNote UserMemo

詳細情報表示

クリックして画像のみのウィンドウを開く → 縦A 縦B 縦C 縦D 縦E 縦F 縦G 横H

同版作品表示 ← 前の作品 新規検索 次の作品 →

サムネイル一覧 簡易情報付一覧 ArtWiki English

AcNo. Z0168-192 CoGNo. Z0168-192 Portal DB

絵師: 歌麿 ( ) 落款印章: 歌麿筆 絵師検索

彫師: 二 人物検索

判型: 大判/錦絵 続方向: 横 作品位置: 001 枚組の 001 番目 01 枚続の 01 枚目

Col重複: 1 All重複: 1

板元文字: 本屋

改印: 二 出版年月: ( ) . ( ) . ( ) 同時作品

作品名: 「岡本屋歌川 重画」

系統分類: 美人画 画題:

Ukiyo-e.org 類似画像検索

所蔵: 浮世絵大成 資料部門: 浮世絵

Permalink: <https://www.dh-jac.net/db/nishikie/Z0168-192/default/>

<https://www.dh-jac.net/db/nishikie/Z0168-192/default/manifest.json>

続き物・組み物 1280× 1024× 800× 100×

所蔵資料の利用に関しましては所蔵資料ご利用ガイドをご覧ください。  
If you wish to use digital image files of material held by the Art Research Center, please [click here](#).

Copyright © 1999- Art Research Center, Ritsumeikan University, All Rights Reserved.

アート・リサーチセンターが所蔵する資料(※所蔵表記に関する注意参照)に限り、下記の条件を満たす非商用利用については、申請書をご提出いただくことなく、無償でご利用いただけます。原則として「クリエイティブ・コモンズ・ライセンス 表示 4.0 国際」(CC BY-NC-SA 4.0) の条件に準拠して提供しています。



- ・ 所蔵データはメタデータと共に保存され、検索可能
- ・ 人文社会科学系研究者の研究プラットフォームになっている
- ・ データベースの場合は所蔵が他機関にあるものも多いが、基本的に全てARCデータベース上で公開
- ・ CC-BY-NC-SAにて提供



### 3. 具体的な研究データ利活用事例

---

#### ■ データ基盤

- ・立命館アトリサーチセンター内にデータストレージを整備
- ・サーバーへのアクセスは研究所の共同研究者に段階的なアクセス権限を付与しデータベース構築や研究を推進
- ・運用経費は学内の自己資金および文科省国際共拠点支援費で措置

#### ■ 支援人材

- ・アトリサーチセンター常駐のURAおよび事務職員3名を含む7名で対応
- ・国際拠点であるためHPも英語を第一言語として運用
- ・データ利活用の支援体制として、テクニカルサポートボードを設置  
⇒サーバー保守・管理、データベース構築技術、デジタル化技術等





## 4. 今後検討していきたいこと

---

研究データの利活用については、誰が利活用することを想定するかで方向性が変わる？

### ■大学にとって

- ・データを活用した研究戦略を立案・推進する人材の確保  
⇒研究データの利活用の促進には、提供するデータの種類や分野の性質に応じた枠組みが必要

### ■研究者にとって

- ・共同利用・共同研究拠点のような支援体制の整備（データ管理・活用のコンサルティングサービス等）

### ■政府機関にとって

- ・予算配分に対する責任として研究成果の公開を義務付けることや、最大限活用されるような仕組みを用意することは重要。公開フォーマットが統一化できれば、個別の成果報告などは削減できる？

### ■市民にとって

- ・将来的にはオープンサイエンスの実現。大学が社会の発展に寄与するための場として最大限活用されるような知の提供の仕組み作りが必要（例えば市民からのSNS発信に、普通に論文の引用がされるような）

▶ 社会と共に新たな価値を創造する次世代研究大学を目指す